

平成30年度  
事業報告書

学校法人 村上学園

東 大 阪 大 学  
東大阪大学短期大学部





目次

建学の精神と本学の使命	4
学園訓	4
本学の教育目的	4
本学の教育目標	4
<b>I. 法人の概要</b>	
1. 沿革	5
2. 法人事務局・学校の所在地	6
3. 設置する学校・学部・学科及び学生・生徒・園児数	6
4. 役員・教職員等の概要	6
<b>II. 事業の概要</b>	
<b>【東大阪大学】</b>	
<b>[1] こども学部こども学科</b>	<b>7</b>
1. 初年次教育	7
2. 公立幼稚園・保育所採用試験対策講座	7
3. 学生の進路に対応したリメディアル教育	7
4. 実習報告会（直後指導）	8
5. 子どもの現場に学ぶ	8
6. 卒業研究発表会	9
<b>[2] こども学部アジアこども学科</b>	<b>9</b>
1. 大学祭	9
2. アジアこども学研修（フィリピン）	9
3. 口頭試問	10
4. 入学前教育	11
<b>【東大阪大学短期大学部】</b>	
<b>[1] 実践食物学科</b>	<b>11</b>
1. 2コース制の運営	11
2. 入学前教育による学生の意識改革	12
3. 初年次教育とリメディアル教育	13
4. 併設高等学校との高大連携強化	13
5. 地域との連携強化による実践教育	14
<b>[2] 実践保育学科</b>	<b>15</b>
1. ダブルアシスト制の充実	15
2. 入学前教育の実施	15
3. 新入生宿泊オリエンテーションの実施	16
4. 資格取得について	16
5. 学生の学習状況について	17
6. 海外研修への参加	18
<b>【大学・短期大学部共通】</b>	
<b>[1] 教学部（教学支援課教務担当）</b>	<b>18</b>
1. 新カリキュラムへの対応	18



2. 開講科目について	18
3. 情報教育への対応	19
4. 免許更新講習の開催	19
5. 大学コンソーシアム大阪について	20
6. 音楽棟の利用	20
7. 地域や外部との連携	21
8. 再課程認定への対応	21
<b>[2] 教学部（教学支援課学生担当）</b>	<b>21</b>
1. 社会のルールや人との約束を守れる人物に	21
2. 学園祭を通じて地域社会とのつながりを	22
3. 年中行事に合わせた学生会・学友会による企画	22
4. ボランティア活動等の充実	22
5. クラブ活動について	22
<b>[3] 入試広報部</b>	<b>23</b>
1. 入試制度	23
2. 広報活動	24
3. オープンキャンパス	24
4. 高校教員対象入試説明会の開催	25
5. 入試結果	25
<b>[4] 総務部</b>	<b>25</b>
1. 補助金の確保	25
2. 予算の適正管理	26
3. 水道光熱費の削減	26
4. 公的研究費の管理	26
<b>[5] 図書館</b>	<b>26</b>
1. 教育・研究に役立つ資料の収集と提供	26
2. 図書館各種企画事業	27
3. 急を要する配慮事項	28
<b>[6] キャリアサポートセンター</b>	<b>28</b>
1. 就職支援対策講座	28
2. 就職活動支援	28
3. キャリア教育支援	28
4. 就職先の開拓	28
5. 進路指導・相談	29
<b>[7] 基盤教育研究センター</b>	<b>29</b>
1. 初年次教育について	29
2. キャリア教育について	29
3. リメディアル教育について	29
4. キャリア教育の研究	30
<b>[8] 保健センター</b>	<b>30</b>
1. 保健室	30
2. 学生相談室	32



<b>[9] こども研究センター</b> .....	<b>34</b>
1. 「こども広場」(月曜日～金曜日:予約制 定員親子 20組 25名) .....	34
2. 「親子で遊ぼう」土曜日・日曜日(月1回) .....	35
3. 「こども応援ひろば」 .....	35
<b>[10] 異文化研究交流センター</b> .....	<b>36</b>
1. 海外研修の支援.....	36
2. 留学生のためのチューター制度の実施.....	36
3. 留学生の学生生活支援活動.....	36
4. 留学生募集広報活動.....	36
5. 海外NGO・NPO 就業支援.....	36
6. 国際交流クラブの立ち上げ.....	36
7. 外国人お料理自慢大会.....	36
8. 各種語学関連の弁論大会の開催.....	37
<b>[11] 公開講座</b> .....	<b>37</b>
<b>[12] FD・SD研修</b> .....	<b>39</b>
1. アンケートの実施.....	39
2. 教員相互の授業参観の実施.....	39
3. FD・SD研修会.....	40
<b>[13] IR研究プロジェクト</b> .....	<b>40</b>
<b>Ⅲ. 学園財務の概況</b>	
1. 事業活動収支計算書.....	41
2. 貸借対照表.....	42
3. 財務比率.....	42



## 建学の精神と本学の使命

開学の祖、村上平一郎先生が学園の設立を志されたのは、「健康にして聡明、情操豊かにして強い生活力を持った人材を育成する」ためであり、この目標を生かすべく、「萬物感謝・質実勤労・自他敬愛」の学園訓を掲げられた。この建学の精神は、時代の変化を超えて不偏性を持つものであり、本学が実践に努めている「学問を通して人間を作る教育」の支柱となっている。

本学の使命は、建学の精神を継承し、大学学則第1条（目的）、第3条の2（各学科の人材養成目的）、短期大学部学則第1条（目的）、第5条の2（各学科の人材養成目的）に従い、教育科目並びに専門科目に関する教育と研究を通じて、社会の良き形成者を育成し、世界文化の発展と人類福祉の向上に貢献することにあるのはいうまでもない。

## 学園訓

### 萬物感謝

「私は、自分以外のすべてによって生かされている。ありがたいことだと感じること。」

私たちが生きていくには、大きく考えれば宇宙全体の力で生きていると言えます。私たちは、空気や太陽、自然界の色々な恵みによって生かされています。言い換えると、宇宙全体のおかげで、自分が今ここに生きているのです。私たちは、萬物のおかげによって、生きているのです。したがって、物を大切にし、すべての命を大切にし、感謝する心を持つことが大切です。

### 質実勤労

「かざり気がなく、真面目に、自分の仕事に精を出し、努力すること。」

科学技術の進歩、高度情報化社会の時代に、将来、社会に役立つ立派な人になるためには、陰日なたなく努力し、自分に与えられたことに対して責任を果たすことです。真面目に、日々の努力を積み重ねる必要があります。そのためには、精神力と身体を鍛え、持っている力を十分発揮できるように努力することが必要です。

### 自他敬愛

「かけがえのない自分を大切にすることはもちろんのこと、他人も大切にすること。」

今、地球上には数多くの人間が生存していますが、自分というものは、世界でたった一人のかけがえのない存在です。それと同様、他人もまたかけがえのない存在です。自分というものは、他人がいなくては生きていけないし、他人によって生かされていることを自覚し、相手の立場をお互いに理解しあうことが大切です。  
(村上靖平理事長 入学式告辞より)

## 本学の教育目的

本学は、教育基本法並びに学校教育法の示すところに従い、村上学園建学の精神と伝統に基づき、学問を通して人間を作る教育をめざすとともに、大学においては、子どもに関する総合的な学芸を教授研究し、豊かな実践力を身につけた有為な人材を育成することを目的とし、短期大学部においては一般教養とともに健康栄養並びに幼児教育に関する実際的な専門の学芸を授け、家庭・社会の良き形成者を育成することを目的とする。

## 本学の教育目標

大学…広い教養と豊かな情操を備え、子どもに関する専門的知識、技能を身につけ、子どもの視点に立って子どもの育ちを総合的に援助できる人材を育てる。

短期大学部…「学問を通して人間を作る教育」の実践を図り、知識や技術に偏重することなく、広く社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。



## I. 法人の概要

### 1. 沿革

昭和15年	12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年	4月1日	布施高等女学校開校
22年	4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年	4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年	2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年	3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年	4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年	4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年	1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年	1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年	1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年	4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年	4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年	2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年	4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年	4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年	3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年	7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年	3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年	3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年	5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年	4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専に名称変更
14年	12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年	1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年	4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年	4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更 健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日	健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
29年	8月29日	東大阪大学短期大学部介護福祉学科設置認可、平成30年4月1日開設

## 2. 法人事務局・学校所在地

法人事務局	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
大学・短期大学部	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
東大阪大学敬愛高等学校	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
東大阪大学柏原高等学校	〒582-0001	大阪府柏原市本郷 5 丁目 993
東大阪大学附属幼稚園	〒577-0044	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1

## 3. 設置する学校・学部・学科及び学生・生徒・園児数（平成30年5月1日現在）

学校名	学部・学科名	学生・生徒・園児数
東大阪大学	こども学部	288
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	75
	実践保育学科	124
	介護福祉学科	81
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	814
東大阪大学柏原高等学校	普通科	681
東大阪大学附属幼稚園		254
合 計		2,317

## 4. 役員・教職員等の概要（平成30年5月1日現在）

- (1) 役員 理事 7人 幹事 2人  
 (2) 評議員 15人  
 (3) 教職員 342人

	教 員		事務職員		合 計
	専 任	非常勤	専 任	非常勤	
法人部門	0	0	10	8	18
東大阪大学	25	23	14	5	67
東大阪大学短期大学部	34	28	17	5	84
東大阪大学敬愛高等学校	46	10	7	3	66
東大阪大学柏原高等学校	54	11	11	6	82
東大阪大学附属幼稚園	18	0	5	2	25
合 計	177	72	64	29	342



## Ⅱ. 事業の概要

### 【東大阪大学】

#### [1] こども学部こども学科

##### 1. 初年次教育

平成29年4月14日～15日、こども学科の新入生は、学外オリエンテーション「新入生宿泊研修会」に参加した。

こども学科では、第1日の午前中、新入生が「それぞれの夢の実現を目指して大学生活をいかに過ごすか」について、グループディスカッションを行い、夜に参加した学科の先輩が、ディスカッションの記録を見てアドバイスを行った。熱気ある雰囲気の中、新入生が授業や実習についてさまざまな質問を意欲的に行っており、大学生活や学科の学びを知り、コミュニケーションを深める大切な機会となった。

##### 新入生宿泊研：夢の実現について語り合う



先輩に記録を見てもらって質問する。



##### 2. 公立幼稚園・保育所採用試験対策講座

###### 公立幼保園保育所採用試験対策講座



平成29年度より、1年次の希望者を対象に「公立幼稚園・保育所採用試験対策講座」を、毎週水曜日の昼休みに954ゼミナール室で行っている。「数的推理」等、1年次から時間をかけて習得していくことで、参加学生が対応力・考察力をつけていく様子が顕著に見られた。

##### 3. 学生の進路に対応したリメディアル教育

平成29年度より、学生の基礎学力向上のため、学生が各々の課題や進路に応じて演習に取り組む2年次選択授業「リテラシー教育」開講した。29年度は後期火曜1限に、【数的処理分野】と【日本語表現分野】のうち、各15ジャンルの問題を学生が選択して解き、教員5名が担当して個別指導を行った。受講生は毎回の振り返りを「自己評価シート」に記入し、教員が評価を記録している。

###### 新開講科目「リテラシー教育」授業風景





基礎学習における学生自身の課題把握、個人指導による勉学意欲の向上などが見られ、また学びを通じた教員とのコミュニケーションの場ともなった。

#### 4. 実習報告会（直後指導）

平成29年度は、それまでの保育・施設・幼稚園実習の直後指導を、実習の締めくくりとしてより充実させるべく、実習報告会を行った。各学生はサンプルを参考に自分の実習をレジュメにまとめ、保育所と施設それぞれの経験を語り合い、最後にテストに取り組んだ。

#### 実習報告会（保育／施設実習）



#### 5. 子どもの現場に学ぶ

##### （1）授業とこども研究センターとの連携

平成29年7月16日に、本学のこども研究センター主催の「こども応援ひろばパートI」が開催された。こども学科4年次の演習授業「子育て支援演習」では、学生が「こども応援ひろば」の企画・準備をして実践することで、親子の交流のあり方や子育て支援について学んだ。多くの子どもと保護者が参加し、学生には学内で実践的に学ぶ貴重な体験となった。

#### こども応援ひろばパート1



#### 準備の様子



##### （2）附属幼稚園との連携

平成29年10月26日に開催された東大阪大学附属幼稚園の運動会に、こども学部こども学科の1年次A組は、必修授業として初等教育実習（幼）の中で参加した。また、1年次B組は2月に実習に行き、子どもの現場を体験した。

他に幼稚園の行事であるバザーやボランティア等において大学と連携し、子どもをさまざまな視点から見る事ができる場を提供していただいた。11月18日のバザーにはこども学科の学生も自主的に参加し、園児・保護者・地域の方々との触れ合いを通して学んだ。

#### 附属幼稚園の運動会（初等教育実習I）



#### 附属幼稚園のバザーに参加する学生





## 6. 卒業研究発表会

平成29年12月21日に、丹山先生のゼミ生による卒業演奏発表会「パーカッションアンサンブルコンサート」を開催し、平成30年2月6日には、卒業研究論文発表会を開催した。29年度は、発表プログラムを卒業生の保護者、実習園に加え関西の高等学校に送付している。学生は、それぞれがゼミで取り組んで来た研究の成果を発表し、今後社会人としても深めて行くべき課題を見いだすことができた。

### 「パーカッションアンサンブルコンサート」



### 「卒業研究論文発表会」



## [2] こども学部アジアこども学科

### 1. 大学祭

台風警報のため、予定を大幅に繰り上げ、終了となった。本学科では、バザーを行った。アジア雑貨からかわいい日用品までも販売した。見ているだけで楽しくなるものばかりだった。また、本学科と関係の深い異文化研究交流センターと国際交流クラブでは、カップラーメン(ベトナムのフォーと、韓国の辛ラーメン)、中国のジャスミン茶を販売した。協賛店の皆さまもご協力ありがとうございました。



### 2. アジアこども学研修 (フィリピン)

アジアこども学科2年生全員が参加する海外研修のための必修科目である。今年も、11月5日から11日まで南国フィリピンのセブ島に行ってきた。

飛行機の出発が2時間も遅れて、初日からクタクタでしたが、翌日には即プレースメントテストを受験した。それから毎日、午前中に英語のプライベートレッスンを受けた。





半畳分くらいしかない小部屋で、フィリピン人の先生とマンツーマンレッスンだった。50分授業で10分の休憩。これを毎日3コマだった。先生方がとてもフレンドリーで、楽しく授業に取り組めた。

レベルが細かく設定されているのもよかった。それぞれが、一生懸命勉強できた。

午前中のレッスンが終わると、午後は様々なアクティビティ。インターナショナル幼稚園への訪問、孤児院訪問、市内ツアーなどがあった。孤児院では、かわいい子どもたちと楽しい時間を過ごした。さまざまなゲームをして触れ合ったり、一緒に肉まんを食べたりした。訪問した学生たちが、多くのものを学ばせてもらった1日だった。



市内ツアーもよい思い出である。美しいサントニーニョ教会 (Santo Niño Open Campus Church) を見た。先生方がやさしい英語で案内してくださったので、いろいろと勉強になった。教会の中には絵もたくさんあった。バザールなどで学生たちはたどたどしい英語できっちり値切っていた。



このほか、皆でショッピングに行っ

たり、食事をしたり、本当に楽しい1週間だった。英語を学ぶだけではなく、様々な施設を訪



問したこと、外国で友だちと過ごしたこと、新しい友達と、出会えたこと、色々な貴重な体験をしてきた。

その後、アジアこども学研修・国際こども学研修・英語短期語学留学I (フィリピン) の帰国報告会があった。帰国前と帰国後の感想、そして、この経験を将来にどうかそうと思っているのか、各々、率直な思いを述べていた。異国の文化に生でふれた、衝撃、恐怖、

笑い、涙、そして、科目担当の井原先生より、この1週間での彼らの成長ぶりを紹介してもらった。また、学生たちが自分で撮影・編集した動画も上映された。

### 3. 口頭試問

2月5日は本学科の卒業論文口頭試問でした。執筆した学生とゼミ担当（主査）と副査1名で行った。学生に成果を存分に発揮してもらいたい。先生方からの質問に、一生懸命答える学生であった。このにこやかな表情とはウラハラに、先生方からの厳しい指摘もあったかもしれない。自分が書いたことに対して、あれこれ聞かれるのは、いい気がしないものだが、自分が書いたことには、最後まで自分で責任を持たなくてはならない。4年間の集大成、よくがんばった。自分が一度興味をもって、深く調べ、考察したことは、



きっと記憶に残る。そして、今後どんな進路にあっても、客観的に先行研究（状況）を見極め、客観的な調査を行い、客観的な分析、考察をするという一連の作業は、必ず必要な作業だ。この経験をぜひ活かしてもらいたい。

きつと記憶に残る。そして、今後どんな進路にあっても、客観的に先行研究（状況）を見極め、客観的な調査を行い、客観的な分析、考察をするという一連の作業は、必ず必要な作業だ。この経験をぜひ活かしてもらいたい。

#### 4. 入学前教育

平成30年3月12日に、平成30年度の入学生を対象に下表のとおり、入学前教育を行った。日本人グループと留学生グループに分けて講義を行った。入学生の多くは留学生ということで日本語教育の強化に努めた。



日 程	アジアこども学科	
<b>3月12日（月）</b>		
9：00～10：30 講義Ⅰ	ガイダンス：アジアこども学の学びに向けて	
10：40～12：10 講義Ⅱ	アジアこども学科での学びⅠ	留学生の日本語入門Ⅰ
13：00～14：30 講義Ⅲ	アジアこども学科での学びⅡ	留学生の日本語入門Ⅱ

### 【東大阪大学短期大学部】

#### 〔1〕実践食物学科

##### 1. 2コース制の運営

本年度より、本学科を栄養士養成課程である「栄養士コース」と製菓衛生師養成課程である「製菓衛生師コース」の2コース制となったが、各養成課程の必修科目はそれぞれ独立しているため、製菓実習関係科目担当として新たに迎えた教員とともに、新カリキュラムに基づいた



授業運営と学生への指導を実施した。また、実習室や実験室及び各備品の使用については来年度も適切な運用を図っていく。



「製菓衛生師コース」のユニホーム



美味しそうに出来ました。

## 2. 入学前教育による学生の意識改革

入学前に、栄養士養成課程における学習への取り組み方を示すとともに、専門分野において必要な計算力あるいはレポートの書き方などの基礎学力を養成する必要があることから、平成29年度入試合格者に対して、入学前の平成29年3月6日、7日の2日間にわたり、入学前教育を実施した。6日、7日は、栄養士を目指す学生向けの書籍(めざせ!栄養士・管理栄養士まずはここからナビゲーション、第一出版)を使用した90分間授業を2コマずつ行った。大学の雰囲気を入学前に味わせることで、大学での授業に慣れ、進学と資格取得に対するモチベーションの維持ができ、入学後の栄養士養成課程へのスムーズな移行ができたと考えている。また、平成30年3月5日、6日には、平成30年度入学生を対象に、下表の通り入学前教育が行われた。6日に90分間(実習の1.5コマ分)の製菓実習を行った。

日程	実践食物学科(平成28年度より学科名変更)		
3月5日(月)	受付 9号館3階 934教室 10:30から		
10:40~12:10	講義Ⅰ	ガイダンス「短期大学で何を学ぶのか」	松井 934教室
	講義Ⅱ	「栄養士・製菓衛生師の基礎知識」	松井 934教室
13:00~14:30	講義Ⅲ	「栄養と体の基礎知識」	源 934教室
3月6日(火)			
9:00~10:30	講義Ⅰ	「食生活と食文化の基礎知識」	富田 934教室
10:40~12:10	講義Ⅱ	「食事バランスガイドを作ろう」	山下 934教室
13:00~14:30	講義Ⅲ	「お菓子作り体験」	岡本 815教室



「短大で何を学ぶのか」の講義



「食事バランスガイド」の講義



「お菓子作り体験」(岡本先生)



「フォンダンショコラケーキ」

### 3. 初年次教育とリメディアル教育

高校までの学習の中で、特に分数や割合といった計算力あるいはレポートの書き方といった基礎的な学力が欠如したまま過ごしてきた学生の存在が、平成28年度に実施した初年次教育とリメディアル教育で判明した。また、敬語を使えない学生も多いことから、パソコンやスマートフォンを利用した基盤教育Web教材「ひがどり」で、敬語の使い方を修得するための国語、実習や実験の科目の中で、学習内容に関係する簡単な計算問題を解かせる数学を中心に組み合わせた。学習不足のある学生を早期に発見するとともに、学生の基礎学力を向上させ、専門分野の学習に移行させることができた。

### 4. 併設高等学校との高大連携強化

併設の敬愛高等学校調理・製菓コースの生徒を対象とした単位互換科目としての授業実施（「食生活論」）や大量調理実習での試食体験、柏原高等学校スポーツコースの生徒を対象とした「進路研究」でのスポーツ選手としての「栄養学の基礎」及びキャリアアップコースの生徒を対象とした「フードマネジメント」などいくつかの授業を本学科の教員が担当することで、栄養士、製菓衛生師それぞれの資格を目指す動機づけを行うとともに本学への進学を促してきた。本年度からは、担当する教員を増やし、大学・短大の陸上部の学生に対して実施している



食生活習慣の改善プログラム等、よりバリエーションのある授業を展開し、高大連携の一層の強化が図れた。また、「給食管理実習」の授業で、敬愛高等学校の調理・製菓コースの生徒を対象とした試食体験とアンケートを実施し、高評価を得た。



山下ゼミでは、スポーツ選手のパフォーマンス向上を目的としたメニューの開発を行っている。今回はハロウィンにちなんで、アスリートの体調を整えてくれる食物繊維とビタミンCが豊富なさつまいもを使ったスイートポテトを開発し、敬愛高校と東大阪大学の陸上競技部へ提供した。



野菜たっぷりのランチメニューを敬愛高校の2年生に試食してもらう。

## 5. 地域との連携強化による実践教育

地元大阪の「なにわの伝統野菜」、和歌山県特産の果実、兵庫県篠山市の特産物など近畿の農産物を活用し、東大阪市大学連絡協議会をはじめ、各地域の団体と進めている商品開発に繋がる取り組みを、各教員の個人研究のテーマとして進めていくだけでなく、栄養士コースの「調理学実習」や「応用栄養学実習」、製菓衛生師コースの「製菓実習」をはじめとした調理を伴う実習や「卒業研究」に積極的に取り入れることで、食物に対する知識を深め、食材の特性に沿った料理技術の習得を目指す実践的な教育を行った。今年度は製菓衛生師コースの岡本先生と和菓子の「菓匠庵・白穂」の共同開発で「しょうゆマドレーヌ」を商品化した。





また、地域連携として、実践食物学科と子ども研究センターの共同企画として、「夏休み企画」親子参加型イベントを実施した。カイコの繭（シルク）から化粧水を作ったり、昆虫食についての説明と実際に試食体験をしてもらった。



シルクから化粧水を作っているところ。



子ども達は抵抗感も無く食べてくれました。

## 〔2〕実践保育学科

### 1. ダブルアシスト制の充実

クラス担任教員（アドバイザー）と小グループ担当教員（コーディネーター）とのダブルアシスト制を導入することにより、これまでの担任だけでは充分に対応しきれない問題にも対応することができた。特に、学科専任教員全員で学生達とかかわることで、学生と教員との距離感が縮まり、教員も個々の学生についての理解を深めることができ、学生たちも履修や実習での相談を積極的にするようになってきた。27年度から必修となった卒業研究発表もこのダブルアシスト制を活用することにより、学生たちに、「書く力」「調べる力」「発表する力」の基礎をつけていくことができた。

### 2. 入学前教育の実施

入学前教育を充実させるため、短大についてや、各種実習（幼稚園・保育所・施設）についての説明を行い、午後からは学科の特性の一つでもある保育教材の製作活動についても入学予定者と学科教員が一緒になって講習を行った。

なお、平成30年度入学生を対象に、平成30年3月5日、6日の2日間にわたり、下表の通り入学前教育を行い、両日共同一内容で実施し、参加可能な日に来校してもらえればと案内をしたところ両日を合わせ、非常に多くの入学予定の学生の出席があった。



日 程	実践保育学科	
<b>3月5日(月)</b>		
9:15~9:30 全体会	受付	
9:30~10:30 講義Ⅰ	短期大学で何を学ぶのか	永久(学科長) 851教室
10:40~12:10 講義Ⅱ	「保育者となるための実習授業とは」 野尻 851教室	
13:00~14:30 演習	「保育教材制作に挑戦しよう！」 学科教員 122教室	
<b>3月6日(火)</b>		
9:15~9:30 全体会	受付	
9:30~10:30 講義Ⅰ	短期大学で何を学ぶのか	永久(学科長) 851教室
10:40~12:10 講義Ⅱ	「保育者となるための実習授業とは」 野尻 851教室	
13:00~14:30 演習	「保育教材制作に挑戦しよう！」 学科教員 122教室	

(両日とも同一内容で実施)

### 3. 新入生宿泊オリエンテーションの実施

新入生を早く大学生活に慣れさせるために一泊二日の宿泊オリエンテーションを実施。資格取得に向けての手立てや大学での学習の心得などを宿泊オリエンテーションで指導した。

新入生同士の親睦を深めることができるように留意したことにより、大学生活になじみやすい環境もできた。



宿泊研修での様子

### 4. 資格取得について

現在は、幼稚園教諭2種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格の取得が可能になっているが、28年度にあつては、これらの4つの資格をすべて取得した学生は少数で、多くは幼稚園教諭と保育士資格を2つを取得する学生が大半を占めた。幼稚園または保育士のいずれか1つの資格しか取得せず、あるいは資格を取得しないまま卒業して行く

学生も若干名いたが、全体的には9割強の学生が何らかの形で保育系関係施設に就職した。

また、昨年から実施している本学内において保育系施設関係者による就職説明会を今年度も開催し、学生たちも熱心に各テーブルを回っていた。



保育系施設関係者による就職説明会の様子

## 5. 学生の学習状況について

実践保育学科では、できる限り学生が幼稚園教諭2種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格の4種類の資格をすべて取得するように指導してきた。特に、認定こども園などの増加傾向にある保育行政の推移を考えながら、保育教諭として認められるには、幼稚園教諭2種免許状、保育士証の2つの免許・資格が必要であることを学生たちには、新入生宿泊オリエンテーションや、機会あるごとに学科の教員がそれぞれの授業の中でも詳しく説明をしてきた。

また、本学科での学業の成果の集大成として、卒業研究において、前期は各テーマごとでの研究を行い、122 教室にてパネル発表会を行った。後期は一昨年よりクラス単位での卒業研究発表会を2月に行ってきたおり、附属幼稚園や近隣保育所の園児や本学のこども研究センター利用の子どもたちを招待して実施している。今年は、附属幼稚園が園行事と重なっていたため来校できなかったが、近隣のむぎの穂保育園の園児や、こども研究センター利用の子どもたちが来校、大学に隣接する東大阪市立西堤小学校の1年生児童や、保育の基礎を学んでいる本学敬愛高等学校のこどもコースの学生も発表会に参加して下さった。



前期 卒業研究パネル発表会



後期 卒業研究発表会におけるクラス別発表の様子

## 6. 海外研修への参加

海外でも活躍できる保育者養成をめざし、本学科の学生4名が夏休みにベトナムにある日本人向け幼稚園の見学会に参加。将来的には海外における保育施設等への就職も含め、今後も引き続き多くの学生を海外研修へと参加させていく予定である。

### 【大学・短期大学部共通】

#### 〔1〕 教学部（教学支援課教務担当）

##### 1. 新カリキュラムへの対応

- (1) こども学部アジアこども学科の留学生増加に伴い、留学生を対象とした新規科目を充実させたため、学生の履修方法や履修状況について担当する教員と情報共有を密にして対応しました。
- (2) 短期大学部実践食物学科において製菓衛生師養成課程が設置され、栄養士コースと製菓衛生師コースの2コース制となり、新規科目が開設されたため、実習室の利用等授業に支障がないよう教室の運用について対応を行いました。
- (3) 来年度より短期大学部に介護福祉学科が設置されるため、介護福祉士養成課程としてのカリキュラムへの対応及び使用する実習室等の準備を行いました。

##### 2. 開講科目について

大学において、学生が4年間で平均して受講できるよう楔型履修方式のカリキュラムを実施し、さらに専門科目の必要単位数が履修しやすいよう配当年次等の検討を行いました。履修学生が極端に少ない授業に関しては未開講としましたが、一部の授業については夏期集中講義等で開講できるよう検討しました。

また、学校行事のスケジュールとの調整をはかりながら学生が履修しやすいよう年間スケジュール等開講時期を配慮しました。



### 3. 情報教育への対応

学生個々がノートパソコンを所持し利用できるよう、無線LAN環境を充実させてeラーニングの導入を促しました。

また、Universal Passport のシステムを利用したWebによる履修登録については、登録方法、登録確認、登録変更方法についての指導をするとともに、再確認機関を設けていますが、登録後に訂正が必要となるケースが少数ですが見受けられます。今後ともアドバイザー及びゼミ担当教員とともに登録確認を徹底し、学生の履修に支障が生じないようにしていきます。

### 4. 免許更新講習の開催

8月21日(月)～25日(金)に行われました「教員免許状更新講習認定講座」には、必修領域に220名、選択必修領域に229名、選択領域に651名の延べ1100名の受講者がありました。(昨年度より延べ人数127名増)

今年度は、システムを導入し、早朝6時からの一斉申込にもかかわらず初日からキャンセル待ちがでるほどの募集がありました。特に幼稚園、保育所(園)の先生方から募集定員を超える申込があり、定員増で対応しました。参加された先生方の感想では、「子ども一人一人と向き合うきっかけとなりました。ありがとうございました。」「授業や指導に取り入れていきたいです。」などのお声がありました。

平成30年度の募集も始まります。昨年度よりも今年度と、よりよいものを目指し討議を重ね一人でも多くの方が東大阪大学で受講されることを願っています。また、受講された先生方を初め、教育現場で頑張っておられる先生方が、子どもたちの学習意欲を大切にしながら、自らの目指す教育実践を積み上げていかれることを願っています。



### 5. 大学コンソーシアム大阪について

大学コンソーシアム大阪の単位互換事業として、次表のように他大学の学生を受け入れました。

学 期	科 目	所属大学	人 数	単位認定者数
後期	こども学Ⅱ	近畿大学	3	3

### 6. 音楽棟の利用

2号館は、音楽棟として、平日の9時から17時まで大学生と短期大学部生がピアノの練習を目的として利用できる施設で、練習室は60室（アップライトピアノ）あり、全室防音・冷暖房完備となっています。今年度の年間利用状況を以下に示します。

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	合計	606	708	712	881	0	171	544	489	549	369	35	0	5064
学 生 区 分	短大1	255	255	321	304	0	152	258	166	206	140	11	0	2068
	短大2	107	237	77	212	0	11	86	77	58	53	2	0	920
	大学1	177	167	262	244	0	6	162	223	258	162	15	0	1676
	大学2	14	10	23	32	0	0	20	12	18	12	7	0	148
	大学3	45	18	15	35	0	0	0	1	0	0	0	0	114
	大学4	8	13	7	39	0	0	5	2	4	0	0	0	78
	科目履修生	0	8	7	15	0	2	13	8	5	2	0	0	60
練 習 時 間	～30分	84	77	70	148	0	28	70	40	57	83	8	0	665
	～60分	246	145	137	205	0	21	65	64	93	82	12	0	1070
	～90分	168	128	155	242	0	28	113	141	145	67	5	0	1192
	～120分	74	339	330	259	0	85	252	224	227	104	2	0	1896
	～150分	30	17	16	23	0	8	36	13	15	23	4	0	185
	～180分	2	1	2	2	0	1	3	3	8	4	1	0	27
	180分～	2	1	2	2	0	0	5	4	4	4	6	3	0
時 間 帯	～09:00	1	4	1	16	0	0	0	0	0	10	0	0	32
	～12:10	328	358	362	377	0	88	294	292	313	149	4	0	2565
	～13:00	127	175	218	183	0	40	152	124	118	73	10	0	1220
	～16:10	91	65	54	179	0	27	65	51	66	74	12	0	684
	～17:00	59	88	77	111	0	16	33	22	52	63	9	0	530
	～18:00	0	18	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	31
	～19:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
～19:30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	



曜日	月	64	113	51	175	0	11	29	23	52	47	0	0	565
	火	18	47	25	66	0	21	51	22	21	39	3	0	313
	水	168	274	249	223	0	111	238	217	220	105	8	0	1813
	木	127	109	126	155	0	20	64	66	57	46	14	0	784
	金	163	147	261	228	0	8	162	127	187	132	10	0	1425
	土	66	18	0	34	0	0	0	34	12	0	0	0	164
	日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 7. 地域や外部との連携

東大阪大学敬愛高等学校、柏原高等学校をはじめ、各高等学校でのプログラムと本学での授業スケジュールとの調整を図りました。音楽棟（4階10室）における敬愛高等学校の使用状況を以下に示します。

使用時間・・・15:30～16:30

月	使用日数	教員数	生徒数	平均生徒数（1日）
5月	8	4	52	6
6月	17	4	98	6
7月	0	0	0	0
9月	17	4	71	4
10月	9	4	53	6
11月	16	4	55	4
12月	1	2	8	8
1月	13	4	39	3
2月	3	2	7	3

## 8. 再課程認定への対応

平成31年度における文部科学省の教職課程の再課程認定への対応として、科目名、科目の内容（シラバス）、担当教員の検討を行いました。

### [2] 教学部（教学支援課学生担当）

#### 1. 社会のルールや人との約束を守れる人物に

オリエンテーション時に、学生生活における注意事項をまとめた冊子「学生の皆さんへ」を配付し、カレッジガイド・キャンパスガイドの内容とともに、平成28年度の道路交通法及び選挙制度の改定により、学生の社会に参加する一人の人間として必要な人間力の向上が高く求められている事等を中心に指導した。その他、1年を通して、掲示板等に注意喚起のポスター掲示を行い、継続的に啓発を行った。



## 2. 学園祭を通じて地域社会とのつながりを

有志学生で組織される学園祭実行委員会が、東大阪市地域の方々や企業等に協力・援助を依頼し、翔愛祭の成功という目的を達成する為に活動をしている。その活動の中で、地域で活躍されている方々とコミュニケーションを取り、物事を相手に伝える力や聞く力を身に付け、幅広く情報を集めるという体験の中から、社会人として必要な能力を身につけることが出来る。平成29年度の翔愛祭は、テーマを「革命」とし、平成29年10月21日に開催した。今年度は、昨年からの本学7号館の解体工事も終わり、中庭には野外ステージも設置され、今までと違った新たな大学祭の開催できると意気込んでいましたが、当日に台風が大阪を直撃し、予定をしていた催し物を半分行ったところで中止となってしまった。しかし大学祭実行委員会のメンバーは来場者を安全に退場させるため誘導したり、中止になったビンゴ大会の返金を行ったりと普段とおりの大学祭では味わえないことを経験できた。このことは今後の社会人としての礎になると考える。

## 3. 年中行事に合わせた学生会・学友会による企画

毎年行っている学生会・学友会主催のクリスマス会ですが、今年度は学園祭が台風の直撃によって途中で中止になってしまったこともあって昨年度よりも盛況になった。電飾は中庭への拡張はまだ見通しが立たない状況だが、高校と話し合いをして今後は少しずつでも広げていきたい。

## 4. ボランティア活動等の充実

ボランティア等の依頼情報を常設の学生ラウンジ掲示板に適宜掲示を行った。学生はこの掲示板、もしくは、担当教員からの情報提供に基づき、小学校の放課後学童指導等のボランティアに参加していた。

## 5. クラブ活動について

2017年度各クラブの部員数は、次のとおりです。国際交流クラブは今年度よりクラブとして承認された。

### 文科系クラブ (4クラブ)

クラブ名	顧問	部員数
ダンス	渡邊ルリ	16
人形劇 (ブロッサム)	大矢智子	2
フォークソング	後藤由美	4
国際交流クラブ	井上幸	12

### 体育会系クラブ (6クラブ)

クラブ名	顧問	部員数
空手道	野々村宜博	7
フットサル	潮谷光人	31
バスケットボール	芝崎良典	7
バレーボール	梅田真樹	11
軟式野球	渡邊由之	20
陸上競技	富山朝代	12

2017年度は、クラブ数が10クラブ、総部員数が122名となりました。

上記以外に、同好会として「音楽サークル（顧問：丹山三恵子）」3名と「映画研究サークル（顧問：大矢智子）」3名が活動した。

### ○大会結果

公式大会における目立った記録としては別表のとおり、本学陸上競技部が、日本陸上競技選手権大会等の全国大会において、素晴らしい成績を残してくれました。

今後のますますの活躍が期待されます。

大会名：2017 日本学生陸上競技個人選手権大会				
開催月日：6月9日～11日			場所：神奈川県 BMW スタジアム	
種目	氏名	学年	記録	順位
走高跳	津田 シェリアイ	AS3	1m75	3位

大会名：第101回日本陸上競技選手権大会				
開催月日：6月23日～26日			場所：大阪府 ヤンマースタジアム長居	
種目	氏名	学年	記録	順位
走高跳	津田 シェリアイ	AS3	1m77	3位



## 【3】入試広報部

### 1. 入試制度

本学で学んだいという意欲ある学生を受け入れるため、入試制度について下記変更を行った。

(1) 特別協定高校をこれまでの19校から20校に1校増やした。加えて指定校の見直しを大胆に行った。

も協定を結んだ。

(2) A0入試の受験手続きを簡略化するために、エントリーシートを自己推薦書に変え、他の



出願書類と一括で提出するように変更した。これで1回の出願手続きで受験が可能となった。

(3) 帰国生のために帰国生入試を新たに設定した。入試内容は留学生入試と同様で、自己推薦書に基づいた面接試験で合否判定を行っている。

## 2. 広報活動

学内関係部署と連携を図りながら、効果的な広報活動を行った。ホームページや各種広報媒体、ダイレクトメールなどによる情報発信、高校相談会や高校訪問及び大学見学会などを通じて、本学の魅力や特色を受験生、保護者、高校教師に伝える活動を展開した。具体的には、次のような広報活動に取り組んだ。

- (1) 大学・短大案内は高校生が興味を持ってくれる内容にするため、写真を増やして、わかりやすい表現にした。
- (2) 各種広報媒体については、費用対効果を考慮して、実施媒体を厳選した。
- (3) 会場式相談会や高等学校内進学説明会への参加については重要度の高い高校を優先したほか、本学教員による高等学校等への模擬授業に積極的に参加した。
- (4) 高等学校等への訪問については一年を通して実施しており、近畿圏を重点地域とするほか、オープンキャンパスの参加者の高校にも訪問し、本学の概要や学部、学科の紹介、入試説明などを行った。
- (5) 高校生にとって興味深い出張授業を企画した。具体的には、全教員が参加した出張授業一覧表を作成して、主に大阪府下の高校に配布して本学の教育内容を紹介した。出張授業の依頼は2校あり、要望に対応した。
- (6) 関係部署と連携してホームページによる情報発信を行ったほか、高校生がよく利用しているスマホやSNS等の電子媒体による広報活動も行った。

## 3. オープンキャンパス

開催日数を昨年度の9回から今年度は6回に変更したが、参加者数は315名で昨年度より70名減少した。

なお、今年度はクラブ紹介や在校生を主体にした運営など新たな試みを行い、昨年度とは違った雰囲気オープンキャンパスとなった。

・学科説明会やミニ体験授業 ・学科個別相談や入試相談 ・学生スタッフによるキャンパスツアー ・クラブ紹介



ミニ体験授業風景



個別相談風景



#### 4. 高校教員対象入試説明会の開催

大学・短大をアピールして受験者数の増加につなげるため、シェラトン都ホテル大阪において高校等の進路指導担当教員を対象にした大学説明会を開催した。参加校は38校で、昨年より3校減少した。

大学・短大の学科説明、入試や奨学金の説明を行った後、参加者と和やかな雰囲気懇談会を行い、相互理解や情報交換などを促進することができた。

#### 5. 入試結果

今年度の入試結果を下表に示す。今年度はアジアこども学科の入学者（留学生）数が大きく増加しているが、他学科は定員割れとなっている。昨年度と同等以上の広報活動を展開しているが、特別協定校や指定校からの受験者、地元からの受験者が減少している。本学に対する関心度が低下していると推測されるので、本学の魅力や特色をどのようにアピールしていくか、再検討が迫られる。

学 科	受験者数	合格者数	入学者数	入学者数 昨年度比
こども学科	51	51	47	-10
アジアこども学科	46	45	43	32
大学合計	97	96	90	22
実践食物学科（栄養士コース）	36	36	33	4
実践食物学科（製菓衛生師コース）	4	4	4	4
実践保育学科	65	64	62	12
短大合計	105	104	99	20
大学・短大合計	202	200	189	42

### 〔4〕 総務部

#### 1. 補助金の確保

教職員に対する経常費補助金（一般補助・特別補助）申請要件の情報の発信として、一般補助に関しては、現在短期大学部実践食物学科が学生数の関係で補助金交付対象外となっているため、全教職員に改めて通知することによって入学者の確保を促した。

結果としては、実践食物学科の平成30年度入試において入学者は42人、平成30年度2年次生は34人と収容定員充足率50%超となり補助金交付対象となる。

次年度において、収容定員充足率100%で増減率100%となるので補助金獲得の意識づけと協力体制づくりを目指す。

特別補助に関しては、補助対象項目となる内容を各学科・部署に通知し、補助金獲得を促したが、大学としての体制、組織上の未整備もあり、改革総合支援事業（タイプ1～5）の獲得



には至らなかった。そのため、次年度においては、特別補助金獲得のためのプロジェクトを立ち上げ、補助金獲得を目指す。

また、補助金申請根拠資料の要件確認が厳しくなるなか、総務部が中心となって様々な要件に即した規程を整備した。窓口を総務課として教職員への周知を図り、協定書の整備及び根拠資料保管等を行った。

## 2. 予算の適正管理

予算執行時は、「購入等伺伝票」「出張届」「起案」等を事前に提出のうえ、決裁を得ることとなり、総務部4人のチェック体制をとり適正に管理している。

## 3. 水道光熱費の削減

平成27年度より学内LED化に取り組み一部実施した。平成28年度は8号館空調機器（ガスヒーポン）入れかえのためLED化は次年度へ繰り越すことになったが、予算編成のうえで再度見送ることとした。平成30年度においては予算確保のうえ一部実施する。

## 4. 公的研究費の管理

一昨年度より整備されている「個人研究費使用の手引き」「科学研究費助成金（学術助成基金助成金／科学研究費補助金）使用の手引き」を見直すとともに、新規採用者に対して、平成29年6月28日にて「公的研究費におけるコンプライアンス教育研修会」を実施した。さらに、平成29年9月27日、10月5日の両日を利用して「公的研究費に係るコンプライアンス教育及び研究倫理教育研修会」を実施した。



コンプライアンス教育研修会

## [5] 図書館

2017年度の入館者数（2018年3月20日集計）は、教職員を含めて3,374人、延べ貸出し冊数は、1,545冊で、昨年度より若干減少している。学生の新聞・雑誌・書籍など紙に印刷された文字媒体の利用率の低下（活字離れ）が進行していると認識している。社会全体の現象だが、いかにして学生の図書館利用率を向上させることができるか、図書館の大きな課題の一つである。

### 1. 教育・研究に役立つ資料の収集と提供

- (1) より良い教育と研究環境の構築を目標に、収書方針に従い、2017年度も引き続き「辞書・事典参考図書」及び本学図書館の一大特色として目指している各国言語によるテーマ別「ア



ンデルセン絵本コレクション」の充実を図ってきた。

その結果、2017年度末までの「辞書・事典類」冊数は2,545冊（2017年12月31日までの登録冊数）となり、「アンデルセン絵本コレクション」は前年度より3冊増え、合計35ヵ国・地域、25言語数の416冊となっている。

当該コレクションの構築は長期にわたって継続収集する必要があるが、予算の削減及び今年度から図書館運営が外部業者に委託されたことにより、冊数の増加及びテーマの拡充に影響を与えている。

(2) 2017年度末までの蔵書数は以下の通りである（括弧内は前年度末の数字）。

和書	73,473冊 (72,246)	洋書	6,262冊 (6,205)
雑誌	608誌 (609)	AV資料	3,645点 (3,616)

厳しい財務状況のなか、特に和書は、1,200冊以上の増加があった。和・洋書の合計は、現在80,000冊弱となっている。

勿論、最新私立単科大学附属図書館の114,525冊の平均蔵書数（『平成29年度学術情報基盤実態調査』、2018年3月23日公開）と比較すれば、まだ相当な距離があり、更なる努力が求められている。

## 2. 図書館各種企画事業

2017年度も学生の図書館利用を促進し、教育活動を支援する目的で、各種企画を下記の通り実施した。

(1) 展示コーナーの充実

2016年秋に、新しい展示コーナーを設置した。一回目の提示テーマは「小学校国語教科書からみる近代日本の歩み」であった。明治初頭から現在までの小学校国語教科書の復刻版や参考資料を展示し、教科書内容の変化を通して近代日本の歴史及び教育の変遷の一部に触れることができる。また、「アジアの中の日本・日本の中のアジア」という企画コーナーも同時に設置し、日本とアジア諸国はどのような関係を築いてきたのか、今後はどのように変化していくのであろうか、関連書籍を展示・紹介をしている。今年度、その内容の充実を図り、展示資料・書籍の更新と追加を行った。

(2) 図書館通信「螢窓」

昨年度、図書館員の異動の影響で10月秋号の発行を見送ったが、今年度は4月号（春号）と10月号（秋号）を予定通りに発行することができた。また、次号から新企画（本、あれこれ）も連載を開始する予定である。

(3) 学生による選書ツアー

春（6月）と秋（11月）に二回実施。参加した学生は合計15名。（春5名、秋10名）。

(4) 読書コンクール

計14編の応募があり、図書館が依頼した教員3名の審査により、最優秀賞、優秀賞、佳作賞と図書館長賞（各1名）がそれぞれ選出された。



### 3. 急を要する配慮事項

#### (1) 蔵書収納スペースの確保

現在、蔵書に対して収納スペースが狭隘となり、配架不可能な書籍が段ボール箱に収納されている状態である。この書籍の閲覧・貸出し手続きが非常に困難である上、新たな蔵書の整理も円滑に進まないため、新たな収納スペースの確保が必要である。

#### (2) セキュリティー装置の導入

2017年度蔵書点検の結果、新たに不明本が発覚され、セキュリティー装置の導入の緊急性を改めて認識させられる。

セキュリティー装置の未整備のため、懸案の地域社会貢献の一環としての外部開放計画の推進には課題がある。

## [6] キャリアサポートセンター

### 1. 就職支援対策講座

- (1) 学外の講師を招き、就職試験対策講座を実施した。講座の内容は履歴書やエントリーシート の書き方、面接対策、ビジネスマナー、パソコン講座などである。
- (2) 小学校教員採用試験対策として、教員が対策講座を開講した。

### 2. 就職活動支援

- (1) 各種就職フェアのチラシを掲示板に貼付し学生へ周知した。また重要なフェアについては学内メールで周知し、参加誘導を図った。
- (2) 企業やその他就職先の担当者を本学に招いての個別説明会（ニチダン）を実施した。
- (3) 合同企業説明会を実施した。34法人の参加があった。
- (4) 本学卒業生が就職している施設・園の見学会を実施した。

### 3. キャリア教育支援

キャリア教育の一環としてインターンシップ実習を支援した。具体的には、大学コンソーシアム大阪、東大阪商工会議所、東大阪市役所、野村証券、私立幼稚園、その他民間企業の窓口として、インターンシップ実習を支援・促進した。ただし今年度の参加者はなかった。

### 4. 就職先の開拓

学生の就職先を拡充するために

- (1) 各種就職フェアに参加し情報収集し求人先を広げた。
- (2) 東大阪商工会議所、奈良経済産業協会、大学新聞社等の主で企業と大学との打合せ会に参加し大学・短大を紹介して求人情報・企業情報の収集を行った。



## 5. 進路指導・相談

就職ガイダンスや就職状況説明会、就職先紹介などを適宜行い、学生に就職情報を提供するとともに、就職活動に関する個別指導（書類作成、面接対策など）・相談などの就職支援を日常業務として行った。

〈平成29年度就職・進学状況〉

平成30年3月31日現在

	学 科	就職希望者の就職率 (%)			進学 (名)
		男 性	女 性	合 計	
大 学	こども学科	80.0	100.0	87.2	0
	アジアこども学科	—	66.7	66.7	0
	合 計	80.0	94.1	85.7	0
短 大	実践食物学科	100.0	94.4	95.7	0
	実践保育学科	100.0	93.3	93.6	0
	合 計	100.0	94.0	94.4	0

## 【7】基盤教育研究センター

### 1. 初年次教育について

初年次教育として以下の授業を必修科目として開講した。

大学1回生「大学で学ぶⅠ」「大学で学ぶⅡ」

短大1回生「大学で学ぶⅠ」「大学で学ぶⅡ」

### 2. キャリア教育について

キャリア教育として以下の授業を2回生については必修として、3・4回生については選択必修として開講した。

大学2回生「キャリアを考えるⅠ」「キャリアを考えるⅡ」

短大2回生「社会人の基礎Ⅰ」「社会人の基礎Ⅱ」

大学3回生「キャリア形成論Ⅰ」「キャリア形成論Ⅱ」

大学4回生「社会人の基礎Ⅰ」「社会人の基礎Ⅱ」

### 3. リメディアル教育について

リメディアル教育用にラインズ楸の「ラインズドリル」を教材として下記を実施した。「ラインズドリル」は、基礎学力強化のための教育ツールであり、今後初年次教育や就職準備段階としての一般常識試験やSPIへの対応力を高めるために活用していく。本学では、「ひがドリ」とネーミングし、学生たちが取り組みやすい環境づくりとして無線LANのインフラも整備して、パソコンやスマートフォンからもテストを実施することができるようになる。



- (1) 大学・短大1回生対象に学力を測るプレースメントテストを5月と1月に実施。
- (2) 大学・短大のすべての学生を対象にラインズドリルを利用できるようにした。  
授業中や自宅で使用し学力の向上を図った。
- (3) 補習の時間を設定し学生のフォローを行った。

#### 4. キャリア教育の研究

日本リメディアル教育学会・日本キャリア教育学科・初年次教育学会に入会し研究を行った。

### [8] 保健センター

保健室及び学生相談室の活用について、より多くの学生・教職員に周知を図るよう努めた。また、学生の状況に応じて、各学科・委員会と協議を重ね、学生の健康管理・メンタルヘルスの向上に貢献している。

保健センターでは、「保健室」と「学生相談室」を設け、「こころ」と「からだ」の両面から支援する体制をとっている。基本的な活動として、①健康診断の実施とその結果に基づく健康管理・健康増進支援、②心身の健康相談・支援、③安全衛生諸活動 などがある。

定例の教授会では、毎月利用状況の報告を行っている。

#### (1) 保護者面談

例年通り保護者面談を入学の式当日に実施し、学生の心身の健康に関する相談を行った。情報については、保護者の同意を得て管理職をはじめ当該学科に報告し、校医・教職員などと連携して入学後のより良い学生支援に繋げた。疾病、障害に関することなど様々な相談があり、保護者面談をきっかけに、継続した学生支援につなげることが出来ている。

#### (2) メンタルヘルス

学生の状況に応じて、事例研究・支援の進め方について密に協議を重ね、学生のメンタルヘルスの向上に貢献した。

#### (3) 啓発活動

学生・教職員のより良い支援を目指すため、保健センター通信「NEWS LETTER」を2回発行し、啓発活動に努めた。心身の健康に関して、学生生活に役立つ情報を発信し全学生・全教職員に配布した。

#### (4) その他

近年、多様な学生が入学してくることを踏まえ、保健センターが利用しやすい場所となるように努めた。保健室と学生相談室の連携を密にし、協働支援すべく環境整備を図った。

また、学生生活に不安をもつ学生や、配慮の必要な学生への対応を講じ、中途退学の予防に努めた。

### 1. 保健室

保健室では、学生・教職員の健康診断、健康相談、突発的な傷病に対する応急処置を始め、

健康診断証明書の作成、学生・教員健診のデータ管理、学生教育研究災害障害保険の手続き、各種業務統計及び各種届出等を行っている。また、学生が利用しやすい場所に設置されていることもあり、その他学生生活に関する様々な窓口としての役割を担った。

(1) 健康診断

学生・教職員を対象として法令に基づく定期健康診断を実施した。また、健診実施に関する問題点を明確にし、健診業者との綿密な協議に努めたことにより、実施・事後措置の充実が図れている。

また、受診票のオープンキャンパスR化やこれまで保健室作業でなされていた結果通知の作成、健診データ加工等を業者委託可能となるよう学内・外で協議を重ねてきており、事務処理の大幅な削減に成功している。さらに近年、再三の再検査の呼び出しに応じない学生の増加に伴い、担任・実習課と連携し、再検査期限内での再検査実施率の向上をめざし、実習準備業務の効率化に繋げている。

(2) 外傷・疾病への対応

学生・教職員の外傷、疾病に対する応急処置を実施した。

また、学生・教職員の疾病や外傷に関する健康相談を実施し、必要に応じて管理職・教職員・医療機関等との連携を図った（利用状況は下表参照）。

(3) その他

健康教育の積極的取組みとして、東大阪市西保健センターとの連携のもと、禁煙活動を推進している。また、労働者のストレスチェック制度の施行に伴い、ストレスチェック制度に関する業務全般を調整し、学生・教職員の健康の保持・増進に取り組んだ。

さらに、安全衛生管理者を中心に労働安全衛生委員会にて協議し、教職員のメンタルサポート体制の充実に努めた。

平成29年度 保健センター月別利用状況報告

1. 保健室利用状況（平成30年3月22日現在）

(1) 短期大学部

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年次	内科系	6	0	2	3	0	3	3	3	2	3	1	0	67
	外科系		3	3	5	0	3	2	2	3	0	0	0	
	健康相談・他		1	1	2	0	0	3	0	3	9	0	0	
2年次	内科系	13	10	5	18	0	0	5	1	4	3	1	0	161
	外科系		5	1	9	0	0	5	1	0	2	0	0	
	健康相談・他		4	6	12	0	3	12	19	10	5	7	5	
計		19	23	18	49	0	9	30	26	22	22	10	5	233

他：皮膚・歯・口腔・眼・耳鼻・他



(2) 大学

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年次	内科系	5	1	5	4	0	0	0	3	0	1	1	0	34
	外科系		1	4	0	0	0	1	1	1	0	0	0	
	健康相談・他		2	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	
2年次	内科系	3	4	4	6	0	0	6	4	4	7	0	0	86
	外科系		7	1	4	0	1	7	0	1	3	1	0	
	健康相談・他		4	2	4	1	0	1	7	1	2	0	0	
3年次	内科系	7	1	1	6	1	0	2	9	3	4	0	0	47
	外科系		0	3	5	0	0	1	0	1	2	0	0	
	健康相談・他		1	0	0	0	0	1	4	3	1	0	0	
4年次	内科系	3	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	24
	外科系		1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	
	健康相談・他		0	2	4	0	0	0	0	2	4	0	0	
計		18	22	23	37	2	1	21	30	16	25	3	0	198
短大・大学／合計		37	45	41	86	2	10	51	56	38	47	13	5	431

他：皮膚・歯・口腔・眼・耳鼻・他

(3) 教職員・他

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	0	5	0	0	2	2	1	1	0	1	0	2	14

他：附属校・来学者等

2. 学生相談室

学生相談室では、学生・保護者・教職員のカウンセリング、コーディネーション、コンサルテーション、学生支援に関する相談業務に努めている。

(1) 学生相談

学生相談室が利用しやすい空間になることを目指し、ポスター掲示、心理テストの案内等を行い、来室を促した（利用状況は下表参照）。

2. 相談室来談状況（平成30年3月22日現在）

(1) 月別来談者数

短期大学部	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年	91	102	102	108	0	11	34	49	26	25	4	0	552
2年	76	87	63	107	6	21	57	60	46	24	0	0	547
計	167	189	165	215	6	32	91	109	72	49	4	0	1099



大学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年	3	16	8	32	1	0	15	28	10	7	0	0	120
2年	2	25	14	32	4	6	48	43	47	35	3	0	259
3年	0	0	1	2	0	0	0	1	4	0	0	0	8
4年	8	9	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	19
計	13	50	23	68	5	6	63	72	61	42	3	0	406

<その他>

メール・電話	6	4	3	4	0	1	3	5	0	5	0	0	31
履修生・保護者等	1	0	0	3	0	5	2	2	3	1	2	0	19
その他	9	10	4	10	0	1	4	11	8	7	12	0	76
計	16	14	7	17	0	7	9	18	11	13	14	0	126

その他；ケース会議等

総合計	196	253	195	300	11	45	163	199	144	104	21	0	1631
-----	-----	-----	-----	-----	----	----	-----	-----	-----	-----	----	---	------

ティーアワー；4月：128名、5月：183名、6月：153名、7月：219名、8月：5名、9月：25名、10月：111名、  
11月：118名、12月：96名、1月：70名、2月：2名

延べ面接回数 1631回／年

実人数 56名／年

(学生のみ、メールは除く)

(2) 内容別相談者数／月別

内容項目	修学	進路	就職	クラブ	適応	性格	対人	恋愛	家庭	テスト	アルバイト	宗教	心理テスト	その他
来談者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(内容複数ある場合、複数カウントしてあります)

その他；体調不良他

(2) 啓発活動

入学式・新入生へのオリエンテーション等で、学生相談室の案内・活用に向けた説明をする時間を設け、カウンセリング希望の新入生に心理的な抵抗を少なくするように働きかけ、学生相談室へいざなう活動に取り組んだ。

大学祭では、「コラージュで遊ぼう」を企画し、地域の親子連れや在学生の参加があった。

(3) ティーアワー

昼休みに学生相談室を開放し、学生相談室の利用が広がる活動に取り組んだ。ティーアワー



一への参加者は、顔見知りだけでなく、学部・学科を超えた交流ができ、初対面の学生と歓談する様子もうかがえた。

#### (4) その他

職場のメンタルヘルス対策が急務となっている社会的現状を踏まえ、担任等、教職員個人に集中しがちな学生援助の負担を、各部署と連携し分担することで軽減を図るよう努めた。

## [9] こども研究センター

### 1. 「こども広場」(月曜日～金曜日：予約制 定員親子20組25名)

地域の親子が利用し、楽しみながら子育ての方法を学ぶ為のメニューを提供した。

手作りおやつやパン作り、手作りおもちゃ等の製作、ふれあい遊び、身体測定、絵本の読み聞かせなどを各月ごとに工夫した。参加する親子間の地域連帯や、異世代の交流づくりも多くみられた。また、自主研修や授業の場として、学生の実践研究も行われた。

#### (1) 手作りおやつ

月	内容	組数	こども数
4月	春キャベツのお好み焼き	37	51
5月	豆腐きなこパンケーキ	55	72
9月	簡単おはぎ	32	42
10月	豆乳もち/豆乳プリン	34	48
11月	簡単大学いも	25	32
12月	炊飯器ケーキ	40	61
1月	じゃこトースト	25	36
2月	いりこ大豆	32	41
3月	切らず揚げ	43	59
計		323	442



#### (2) 制作

月	内容	組数	こども数
4月	こいのぼりをつくろう	37	51
5月	押し花のランチョンマット	54	74
6月	紙漉きではがきをつくろう	45	59
7月	手形&足型アート	46	60
9月	英字新聞で紙バック	35	50
10月	秋の実りでどんぐりトトロ	34	44
11月	パンでクリスマスリース作り	59	77
12月	廃材でオーナメント作り	56	72
1月	牛乳パックのリリアン編み	44	64
2月	雛飾り作り	44	62
3月	にじみ絵作り	52	80
計		506	693





## 2. 「親子で遊ぼう」土曜日・日曜日（月1回）

土・日曜日の開催により、父親や兄弟が参加しやすく家族そろっての参加が多かった。また、以前にこども広場を利用された小学生の親子なども参加された。

月	内容	組	こども数
4月	等身大こいのぼり作り	12	17
5月	大型積み木で遊ぼう	19	27
6月	赤ちゃん体操	14	24
7月	廃材を使っておもちゃ作	12	16
8月	あかちゃん運動会	14	18
9月	親子でメロンパン作り	14	20
10月	紙ひこうき飛ばし	7	13
11月	絵本フェスティバル	6	8
12月	お正月飾りを作ろう	17	24
1月	お正月遊びを楽しもう	14	24
2月	プラ板でネームプレート	15	22
3月	参加者交流会	24	42
計		168	255



## 3. 「こども応援ひろば」

### (1) こども応援ひろば 2017 パート I

学生（CS4『子育て実践演習』）の授業受講者との共催で実施した。

内容は「夏の思い出たくさん打ちあげよう」をテーマに、学生もスタッフの一員として、子どもと接し保護者からも「楽しかった」との感想を多くいただく。

月 日	内容	大人	こども数
7月16日（日）	こども応援ひろばパートI	200	220

### (2) こども応援ひろば 2017 パート II

「親子で一緒に音楽を楽しむ会～近畿大学吹奏楽部による演奏会～」

昨年の「音楽を楽しむ会」に引き続き、親子がゆっくり音楽を楽しみ参加できる演奏会を開催した。今年は敬愛高校の吹奏楽部の生徒も参加し、「楽器紹介や 子どもの指揮者体験」など好評をいただき、来年度の開催の要望も多くいただいた。

月 日	内容	大人	こども数
2月24日（土）	こども応援ひろばパートII	120	105





## [10] 異文化研究交流センター

### 1. 海外研修の支援

アジアこども学科では、平成29(2017)年11月に教員2名の引率の下、今年も「アジアこども学研修」「国際こども学研修」を実施し、フィリピンセブ島を訪れ、英語のマンツーマンレッスンを15コマ、各種施設・学校見学及びフィリピンの学生との交流を行いました。

### 2. 留学生のためのチューター制度の実施

平成29(2017)年4月入学の留学生のために、チューターとして日本人学生13名を選び、留学生の学生生活支援を行い、日本人学生と留学生との親睦を図りました。本年度は奈良観光やハロウィンパーティー、鏡開き等を行いました。

### 3. 留学生の学生生活支援活動

留学生の学生生活を支援するために、①在留資格「留学」の資格更新のための申請書類作成、②日本学生支援機構やその他機関による学習奨励費（奨学金）の募集、決定の事務処理を日常業務として行いました。

月別相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
生活相談	47	32	26	37	2	1	41	39	34	12	1
事務手続き	12	7	3	4	1	0	2	1	1	2	1

### 4. 留学生募集広報活動

学生募集の窓口である入試広報部と協力して、留学生募集のために日本語学校へ募集活動を行い、一定の成果を挙げることができました。

### 5. 海外NGO・NPO就業支援

海外青年協力隊、日本語サーポーターズ等の海外ボランティア活動の情報提供を行い、希望者に就業支援を行いました。

### 6. 国際交流クラブの立ち上げ

本学学内での国際交流活動だけでなく、東大阪市内在住外国人との交流活動や学内語学学習促進活動を目的とした同好会設立。活動支援を行いました。

### 7. 外国人お料理自慢大会

東大阪日本語教室との共催で、地域の外国人の方と本学の学生によるお国自慢お料理大会を実践食物学科と合同で主催した。出場者6名（本学学生2名、東大阪日本語教室4名）参加者数は約50名で本学の学生や地域の方や、東大阪日本語教室の方が多く参加されました。普段食



べることのできない外国の料理に参加者はとても興味を持って観覧していた。また、本学実践食物学科の学生が料理の手伝いに入り、普段あまり関わることのない外国人の方々との交流を楽しんでいた。

## 8. 各種語学関連の弁論大会の開催

留学生による日本語弁論大会（村上杯）、日本人学生による外国語（英語・中国語）弁論大会（吉岡杯）を主催しました。日本語弁論大会に出場した留学生は日頃の学習成果を披露するいい機会となりました。また、東大阪日本語教室の外国人学生も参加し普段知り合うことのない学生以外の日本語学習者との出会いに刺激を受けていた。外国語弁論大会は、日本人学生にとっては英語で発表した学生はより英語に対する学習意欲が高まり、中国語で発表した学生は中国に対する興味が高まりました。大会後の交流会では東大阪日本語教室の方や地域の方との交流の場となり、日本語学習についての情報交換などが行われておりました。

## [11] 公開講座

東大阪大学短期大学部

実践食物学科 岡本貴司「もぎたて新鮮紅玉リンゴのタルトを親子でつくりましょう」

実践食物学科 鷹野和美「医療と介護の上手な使い方教えます」

実践保育学科 乾 公昨 ふるさとの歴史「ひがし大阪もの知りカルタ」を使って

東大阪大学

アジアこども学科 井上 幸「中国大陸からきた漢字と日本古代の漢字学習」

こども学科 渡邊由之「東日本大震災と教育の課題」-宮城県石巻市での訪問調査を通じて-

こども学科 丹山三恵子（マリンバ）

阿久津啓・太田寛子・尾崎克典・北野久美子（ピアノ）

「音楽で世界の旅Ⅱ」-マリンバとピアノコンサート-

○「もぎたて新鮮紅玉リンゴのタルトを親子でつくりましょう」

18組43名受講





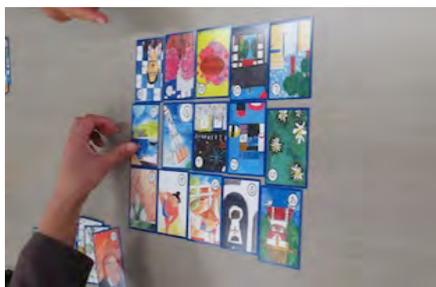
○「医療と介護の上手な使い方教えます」

11名受講



○ふるさとの歴史「ひがし大阪もの知りカルタ」を使って

78名受講



○「中国大陸からきた漢字と日本古代の漢字学習」

27名受講



○「東日本大震災と教育の課題」-宮城県石巻市での訪問調査を通じて-

7名受講



○「音楽で世界の旅」-マリンバとピアノコンサート-

51名受講





各学科へ公開講座を依頼。本学の特色を生かした大学・短期大学部各分野での講座を決定し、実施いたしました。

地域の方々や学生等にホームページ・ポスター・チラシ・市政だよりによって案内をし、FAXとメールによって受講希望者は申し込み、本学にて受付をいたします。全講座参加費無料。

## [12] FD・SD研修

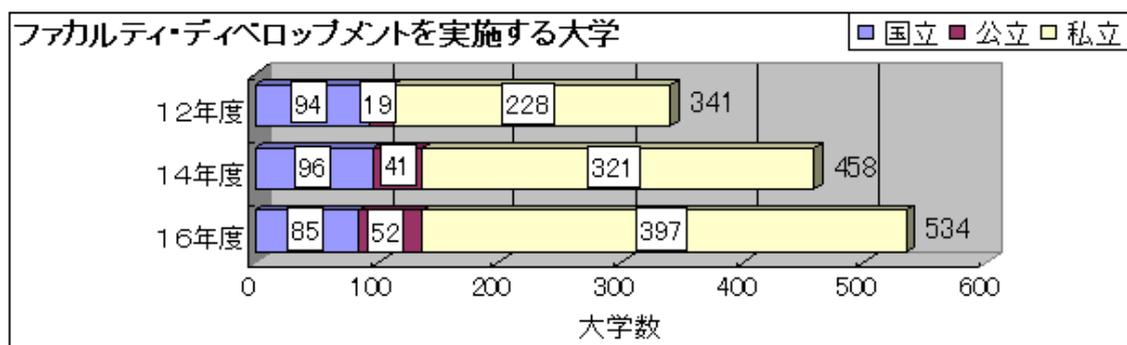
### 1. アンケートの実施

文部科学省は、大学におけるFD（ファカルティディベロップメント）を大学における重点整備項目として推奨し推進してきている。下図（文部科学省 HP）に示す通り、実施する大学は、平成12年度341大学（約52パーセント）から平成16年度534大学（約75パーセント）と着実に増加しており、今日では殆どの大学で取り組んでいるところである。

本学においては、学生満足度の向上を目途としてアンケート調査を実施した。志望動機、入学動機等から、物理的環境及び教育的環境等に係る改善すべき点等が挙げられ、FD・SD研修会を通して、全教職員が当該調査結果を共有した。

特に要望の強かった、学生食堂のメニューの増加、駐輪場の整備、授業の受講態度の改善、事務処理の迅速化、オープンキャンパスの方法等について、重点的に取り組み、一定の効果を上げることができた。

教室の視聴覚設備等に関する改善要求、特にひがドリの使用に供するWifiの全館設置については、今後の課題として残るものの、今後取り組むべき点として明確化できたことに意義があった。



調査対象：全ての国公立大学（短期大学を除く。放送大学は私立大学に含む。）

平成16年度の調査対象大学数は709校（国立87校、公立77校、私立545校）年度当初、在学生に対するアンケート調査を実施した。

### 2. 教員相互の授業参観の実施

教員が授業の質を高めることのできるよう、大学・短期大学部それぞれ特定の授業時間を指定し、教員相互の授業参観を実施した。昨年度までとはことなり、授業参観後、スモールグル



ープによるディスカッションを実施し、その場で経験を共有化し、具体的な改善点を挙げていった。

参観後のアンケートでは、他の教員の授業を見ることで新たな発見があったというものが多くみられた。代表的な回答は以下の通りです。

- ・「学生個人個人に細やかに指導していたのが参考になった」
- ・「まず教員が話すのではなく学生に考えさせていた方法が参考になった」
- ・「教員が学生に話しかけるように質問し、学生の回答から話を広げて感心した。学生とコミュニケーションをとりながら授業を進めていた」
- ・「ワークショップ、ロールプレイ、劇などの実践を取り入れていたのがよかった、こんな実践もあるのだと参考になった」
- ・「理解度のチェックの方法が参考になった」
- ・「自分の授業が普通と思っていたら他の教員に指導力があってびっくりした」

他の教員の配布資料、ppt.等を観る機会ほとんどないが、この授業参観によって、非常に参考になる点が多かった。着席順に注意することで、学生の集中力を途切れさせない工夫がされて参考になった。等の感想がみられたことに加えて、実施者も参加してのミーティングを持ったことにより、より深く授業の狙い等が共有された点で、意義のある研修であった。

### 3. FD・SD研修会

本学では留学生の入学が増加していること、次年度に介護福祉学科が開設されると40人以上の留学生が入学する見込みである等の状況から、留学生管理に経験豊富な外部講師を招いてFD・SD研修を年度内に実施する計画であったが、留学生の入学後に実施するほうが効果的だという意見があり、次年度の早期に開催することとして、年度内の留学生の在籍管理に関する研修は行われなかった。

#### [13] IR研究プロジェクト

本学におけるIRの捉え方と方針について検討を行い、各部署が持つデータの有効活用と共有化及び本学の求める学生像の視覚化を目指していくことになった。まず本年度は、敬愛高等学校からの進学者について情報共有を進め、学生のモチベーションの維持を図った。



### Ⅲ. 学園財務の概要

#### 1. 平成30年度事業活動収支計算書

(単位 千円)

(教育活動収入の部)	平成30年度	平成29年度	平成28年度
学生生徒等納付金	1,356,782	1,188,971	1,174,787
手数料	33,868	40,980	28,162
寄付金	27,190	20,814	52,790
経常費等補助金	992,997	1,014,527	1,043,734
付随事業収入	119,628	120,726	125,996
雑収入	38,081	44,374	35,980
教育活動収入計	2,568,547	2,430,391	2,461,450
(教育活動支出の部)			
人件費	1,464,130	1,508,771	1,533,571
教育研究経費	857,888	811,400	1,105,271
管理経費	359,7805	407,390	303,671
徴収不能額等	5,471	4,217	2,984
教育活動支出計	2,687,269	2,731,778	2,945,497
教育活動収支差額	△118,722	△301,387	△484,047
(教育活動外収入)			
受取利息・配当金	64,414	26,671	85,314
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	64,414	26,671	85,314
(教育活動外支出)			
借入金利息	27,523	29,075	28,747
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	27,523	29,075	28,747
教育活動外収支差額	36,891	△2,404	56,567
経常収支差額	△81,830	△303,791	△427,480
(特別収入)			
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	1,949	1,387	343,367
特別収入計	1,949	1,387	343,367
(特別支出)			



資産処分差額	0	6	137,939
その他の特別支出	60	0	1
特別支出計	60	6	137,940
特別収支差額	1,889	1,387	205,427
基本金組入前当年度収支差額	△79,942	△302,403	△222,053
基本金組入額合計	△183,152	△756,870	△497,469
当年度収支差額	△263,094	△1,059,274	△719,522
前年度繰越収支差額	△3,191,043	△2,131,769	△1,421,023
基本金取崩額	0	0	8,797
翌年度繰越収支差額	△3,454,136	△3,191,043	△2,131,748
事業活動収入計	2,634,910	2,458,450	2,890,130
事業活動支出計	2,714,852	2,760,853	3,112,183

## 2. 貸借対照表

(単位 千円)

項目 \ 年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
固定資産	14,081,335	14,026,646	13,568,414
流動資産	1,001,407	1,334,740	2,192,046
資産の部合計	15,082,742	15,361,386	15,760,460
固定負債	2,643,577	2,821,375	2,979,282
流動負債	690,455	711,359	650,103
負債の部合計	3,334,032	3,532,735	3,629,385
基本金の部合計	15,202,846	15,019,694	14,262,824
繰越収支差額の部合計	△3,454,136	△3,191,043	△2,131,748
負債及び純資産の部合計	15,082,742	15,361,386	15,760,460

## 3. 財務比率

(単位 %)

項目 \ 年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
人件費率	55.6	61.4	60.2
人件費依存率	107.9	126.9	130.5
教育研究費比率	32.6	33.0	43.4
消費支出比率	△3.0	112.3	107.7





**東大阪大学・東大阪大学短期大学部**

〒577-8567 東大阪市西堤学園町 3-1-1

TEL.(06) 6782-2824 FAX(06) 6782-2896